



体を壊しているのに、家族のことを思っているのに、  
依存症になるとどうしてやめられないのですか？

アルコール依存症は脳の病気で、お酒をやめなければならない  
ことをわかってはいるもののやめられないところが病気の本質です。

つまり、多量に長期間お酒を飲んできた結果として脳に変化が  
起こり、お酒のコントロールを失ってしまったのです。ただ好きで  
飲んでいるように見える人も、ご家族が辛い思いをしていることや、  
自分の体が悲鳴を上げていることに気づいている人がほとんどです。

そして、多くの方が何度もやめる努力をしたけれども結局やめられ  
なかったという経験を持っています。お酒をやめるには工夫が必要  
であり、どんな工夫をこらせばいいかを一緒に考えるのが医療・保健  
機関の役目です。しかし、ご本人に病院に行くよう促してもなかなか  
受診しようとしなないことも多いでしょうから、ご家族だけでも病院や  
精神保健福祉センターに相談に行くことをお勧めいたします。



抱えている心理的な生きづらさを  
支えていくことが重要です！





アルコール依存症は予防できますか？



予防は可能です。アルコール依存症はある日突然なるものではありません。習慣的に飲酒を続けていると、酔うために必要なお酒の量が少しずつ増えるため、時間をかけて多くの量を飲酒するようになっていきます。

このような多量飲酒を背景にして、親しい人との死別や家族関係の悪化などの大きなストレスや、(例えば退職して急に自由な時間が増えるなどの)生活習慣の大きな変化が組み合わさると急速に依存症へ進行することがあります。生活上の出来事は予測できないものもあるため、やはり依存症を予防するためには日頃からの飲酒量を控えておくことが大切です。

しかし残念ながら、日本社会はお酒に対して非常に寛容であり、メディアは飲酒の良い面を強調する傾向があります。実際に、メディアによるお酒の広告は若者をターゲットにしたものでなくても、若者が飲酒を開始する年齢を引き下げることにつながることが報告されています。そして、早く飲酒を開始した人ほど依存症になりやすいことがわかっています。

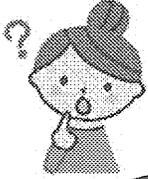
また、健康になりたいとお酒を控えることを決断したとしても、周囲の人が多量に飲みながらも元気そうであれば、「まあ、これくらい大丈夫だろう」と楽観的になり、多量な飲酒が普通のことのように感じられてしまいます。

飲酒機会の多い人ほど、頻繁にお酒を飲む人と一緒に飲む機会が多いため、お互いの飲み方を見ながら相対的に自分の飲酒量がさほど多くないと勘違いしてしまいます。このように多量な飲酒量を基準にしてしまう人がいれば、注意が必要です。最近の日本の調査では、飲酒量が多い上位 20%の人達が、全体のおよそ 70%のアルコールを消費していることが明らかになりました。

アルコール依存症の予防として、まず多量飲酒の習慣を作らないこと、そして一度できてしまったのであれば、その飲酒量を減らすということが鍵になります。社会や周囲の人からの飲酒を促進する力に抵抗することは簡単ではありませんが、自分自身が健康でありたい気持ちとお酒の影響について考え、「節度ある適度な飲酒」を参考にしながら時々自分の飲酒習慣を振り返ってみることが大切です。

アルコール依存症を予防する目的として、少なくとも週に 2 回以上の休肝日が勧められます。休肝日と良く言われますが、依存症の予防の観点からしますと、実は脳がお酒に適応し過ぎないように“休「脳」日”を作るという大切な意味があるのです。お酒は楽しみを中心ではなく、あくまでも脇役であることを意識しましょう。

最後になりますが、個人の努力だけでは限界があるため、社会全体で予防に取り組むことも当然必要になってきます。広告の規制や啓発など対策は様々ですが、医療や保健の分野においても、飲酒量を低減するための相談や介入の整備が必要です。この一つとして、ブリーフ・インターベンション（簡易介入または短期介入）という関わりがあるのですが、保健師等により多量飲酒が疑われる人に対して飲酒状況を確認し、その結果に応じた簡潔なアドバイスを提供するというものです。このような介入が内科、救急外来、かかりつけ医、職場の検診などの多領域で行われることが期待されています。



アルコール依存症の治療に関する薬剤はありますか？

主なものとしては離脱症状を軽減・予防するための薬と、断酒の継続を助けるための薬があります。薬剤を上手に活用することで断酒を継続しやすくなります。習慣的に飲んでいたお酒を急にやめると、手の震えや発汗、吐き気やイライラ感などのアルコール離脱症状が現れる可能性がありますので、これらの症状を抑えるために、ベンゾジアゼピン系薬剤が用いられます。注意すべきこととして、これら薬剤にも「依存性」があるために、症状が改善するにつれて薬の量を徐々に減らすという方法が一般的です。

断酒の継続を助けるために用いられる薬には抗酒薬と断酒補助薬があります。断酒補助薬は脳に作用して、お酒を飲みたいという気持ちを抑えます。抗酒薬は「酒に抗（あらが）う薬」と表記しますが、お酒が嫌いになる薬ではありません。抗酒薬は肝臓に作用してお酒を分解する能力を低下させるので、服用中に飲酒すると急性アルコール中毒の状態になります。そのため、「飲みたい」と思った際に、お酒を飲むことをとどまるのを助けてくれます。

いずれの薬剤でも、その服用意義を理解できる人が自分で服用することを決めることが重要です。また、服用を継続するために、ご家族の前で服用するなどの工夫が効果的です。





アルコール依存症になる人はもともと  
意志が弱い、だらしない人なのではないですか？

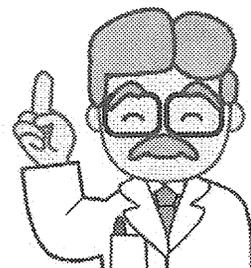
アルコール依存症はお酒のコントロールを失う脳の変化による  
もので、意志の強さには関係せず、飲酒習慣と個人の体質に大きく  
影響を受けます。

お酒に関する問題が増えているにもかかわらず、お酒を飲むこと  
をやめることができなくなっていますので、「意志が弱いのでは？」  
と誤解されることも少なくありません。

アルコール依存症を抱える人と関わっている立場の意見ですが、  
むしろ意志が強い人のほうが多いのかも？という印象があります。



外面よりも内面が大事じゃ！





アルコール離脱症状ってどのようなものを指しますか？

離脱症状はお酒を長期に飲み続けている人が、急に飲酒をやめて（減らして）、体内のアルコールが急激に減少したときに出現する症状を指します。

習慣的に飲酒を続けていると、脳の活動を低下させるお酒に対抗して、それに負けじと脳を興奮させる細胞が増えることによってバランスをとるようになります。ですが、長期にお酒を飲み続けていた人が何らかの理由で飲酒できない状態になった場合（身体治療での入院なども含めて）、脳はその興奮させる細胞に相対的に偏ってしまうために症状が現れると考えられています。

時期によって早期症状と後期症状に分けられます。早期症状は飲酒をやめて数時間～48時間以内に出現するもので、手・体のふるえ、発汗、吐き気、けいれんなどの症状がみられます。後期症状は飲酒をやめて48～96時間で出現するもので、意識の変化、激しい興奮、幻視（幻覚）、時間や場所がわからなくなる等の症状がみられます。

早期症状の出現なく後期症状が出現することは10%未満であり、離脱症状は薬を使用することで事前予防が可能ですので、これらの症状が疑われる際は時間を気にせず救急受診をお勧めいたします。



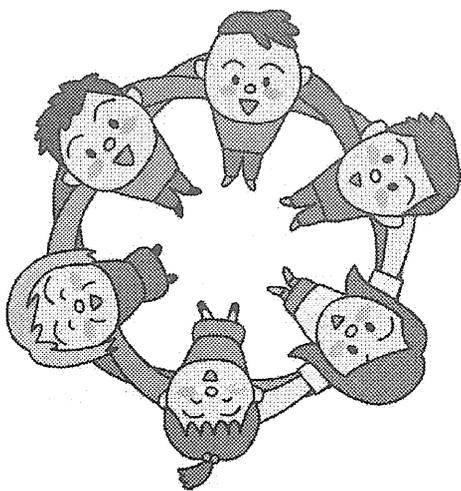


自助グループ（断酒会・AA）はどんなところですか？

自助グループは、アルコール依存症を抱える人達が定期的に集まり、お酒にまつわる体験談や、つらかったことの共有や希望の分かち合い、そして、情報交換などが行われています。お酒をやめたいと思っている人なら誰でも参加できます。

日本では断酒会とAA（アルコホーリクス・アノニマス）が有名で、断酒会では例会、AAではミーティングが活動の中心となります。

同じような問題をもつ仲間と出会い、体験を語り合うことで、断酒のモチベーションを保ちやすくなり、断酒継続の大きな支えとなります。断酒会とAAでは匿名性や運営の仕方などで違いがありますが、参加メンバーによっても雰囲気異なります。まずはお近くの自助グループに足を運んで、自分に合う場所を見つけていただければと思います。





自助グループに行くと悪友ができるって本当ですか？

難しい質問ですが、よく耳にする質問でもあります。

考えを整理するために、別の例に置き換えて考えてみましょう。

「塾に通うと、悪友ができるって本当ですか？」いかがでしょうか？  
確かに、塾の中にも、やる気のない人もおそらくいるでしょう。

しかし、一般的に、受験をする意識に乏しい集団と比べると、勉強に熱心な人の割合は高いはずです。塾に入って悪友とつるむのか、頑張っている人と切磋琢磨するのは、塾という枠組みよりも本人の気持ちの面が大きいのではないのでしょうか？

何事も 100%はありませんし、マイナスポイントもあるはずです。  
大事なのは良い面と悪い面のどちらに目を向けるかです。

話を自助グループ(断酒会や AA)に戻すと、「自助グループに行くと悪友ができるって本当ですか？」の質問の答えは、自助グループの枠組みではなく、本人に断酒する気があるかどうかが大事だということになります。





自助グループに行くことに抵抗感が強い人には  
どのように関わればいいですか？

自助グループを勧められてもなかなか行けない、抵抗感が強いということは少なくありません。治療において自助グループはとても重要な役割を占め、自助グループに参加を継続している人の方が断酒の成績は良いことは明白です。まずはそのことを本人に伝えるとよいでしょう。自助グループに行けない(行きたくない)理由は人それぞれです。どうして行きたくないのか、直接理由を聞いてみることもよいでしょう。理由が言葉にならず、なんとなく抵抗感が強いという人もいます。"食わず嫌い"のような場合は、最初の1回や数回程度一緒に参加する人がいるだけで、その後はスムーズに参加できるようになることもあります。

また、人前で話すのが苦手という人もいます。その場合は話すことを強要せずに、聞くだけでもよいことを伝えたり、話す内容を一緒に考えたりすると行けるようになるかもしれません。自助グループは人の集まりであり、ある程度グループ毎の特色があります。年齢や性別、価値観などのグループの色合いがどうしてもあわず苦痛を感じる場合には、他地域のグループへ参加してみるとよいかもしれません。

自助グループは、断酒にとっても有効な手段ですが、自助グループに通うことなく、断酒を継続できている人が多くいることも事実です。人の話を聞いて共感できる能力には個人差があり、共感しにくい場合には参加によりかえって苦痛や孤独感が強まるかもしれません。そして、人とのコミュニケーションが極端に苦手な人もいます。自助グループに通うことができない場合には、無理に勧め続けるのではなく、デイケアや作業所など、地域の利用可能な社会資源の中で、作業活動をすることを目指してもよいかもしれません。





自助グループに家族も一緒に行った方がいいですか？

ご家族が自助グループに行くことには、3つの良い点があります。

1点目は、当事者がどんな場所に行っているか、何をしているか、どんな人たちに出会っているかなど、自助グループを理解できるようになります。

2点目は、ご家族同士の知り合いができることです。病気になって苦しむのは当事者もご家族も同じです。自分たちだけが苦しんでいるのではないと体験を通して知ることや、知り合った人達に質問をして答えをもらうことができるなど、ご家族の孤独感を解消できる利点があります。

最後に、当事者自身が回復しやすくなる可能性があるということです。病院の家族会に出ているご家族がいる人とそうでない人を比較すると、入院して以降の2年間における断酒率が高いというデータがあります。診療現場の実感ですが、ご家族だけで自助グループに参加しても一定の効果があります。可能であれば、当事者が参加することに抵抗感が強くても、ご家族だけで自助グループに参加することをお勧めいたします。



## 作成後記

お酒は身近な飲み物ですが、そのメリットばかりが強調されてデメリットを知る機会は少ないように思います。正しい知識を得る機会がないままにお酒に関連する疾患にかかってしまう人が多く、私たち医療者は胸を痛めてきました。本書には、さまざまな対処方法をなるべく具体的に記載しました。この冊子があなたやあなたの身近な人たちにとって、お酒との付き合い方や関連する問題について考えていただくきっかけになることを願っております。

我々の研究により、アルコール依存症を抱える人は、お酒の問題だけでなく、その根底に潜むさまざまな生きづらさを抱えていることがわかっております。この点を皆様に理解していただくことが、本書の重要なポイントなのです。

私たち作成委員は、お酒に関連する問題や困難を抱えている人達への治療や研究に従事しておりますが、医療だけでは完結しえない多くの問題があることを実感しております。こうした問題を解決すべく、私たちは今後も精一杯努力をし、皆様ともいろいろな形で連携をとらせていただければと考えております。

本書が、皆様のお役にたてましたら幸甚です。

平成 28 年 3 月

市民のための

お酒とアルコール依存症を理解するためのガイドライン作成委員会

## アルコールに問題がある患者さんに関する調査

厚労省の調査によると、わが国でのアルコール依存症の数は約 109 万人いると推定されています。アルコール依存症の治療について多くの病院や施設で様々な工夫をしていますが、残念ながらその治療成績はまだまだ高いとは言えない現状です。その原因の 1 つとして、調査研究に基づく医学的根拠が不足していることが挙げられます。

そこで我々は、アルコール依存症の治療成績を向上させるための医学的根拠を収集するために、アルコールの問題で精神科を受診していただいた患者さんを対象とする調査を行うことにいたしました。本研究の結果は、匿名のかたちで統計的に集計されるので、どなたがどの回答をしたかが分かることはありません。統計学的な処理・分析を行ったうえで、論文や学会などで発表させていただきます。この調査の重要性をご考慮いただき、ぜひともご協力いただくようお願い申し上げます。

### 1. 調査の内容と方法

あなたの今のお気持ちや過去のご経験などについてお尋ねするアンケートにお答えいただきます。また、病院職員より、あなたの社会的背景や飲酒の状況についてインタビューさせていただきます。もちろん回答は答えられる範囲で結構ですし、答えたくない質問があった場合には、無理に回答する必要はございません。もし調査に協力しなかったとしても、当院で治療を受ける際に不利益になることは一切ございませんので、その旨を担当職員にお伝え下さい。

### 2. 個人情報の保護

個人名は研究同意書を除いて記載してもらうことはありません。データの匿名化によって個人情報の保護に努めるとともに、ご記入いただいたアンケートは院内で厳重に管理します。また、調査終了後には速やかに調査票を破棄いたしますので、大切な情報は十分保護されます。

ご不明な点がございましたら、下記のいずれかの宛先にお問い合わせください。

#### \*問い合わせ先（いずれでも結構です）

(医) 信和会 高嶺病院  
山口県宇部市善和 187-2  
Tel: 0836-62-1100 (代)  
研究責任者：田中 増郎

神奈川県立精神医療センター  
神奈川県横浜市港南区芹が谷 2-5-1  
Tel: 045-822-0241 (代)  
研究責任者：小林 桜児

三重県立こころの医療センター  
三重県津市城山 1-12-1  
Tel: 059-235-2125 (代)  
研究責任者：長 徹二

あなたの人生に対する感じ方についてうかがいます。

あなたの感じ方をもっともよく表している段階の番号に1つだけ○をつけてください。

1	あなたは、自分のまわりで起きていることがどうでもいい、という気持ちになることがありますか？ (まったくない) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (とてもよくある)
2	あなたは、これまでに、よく知っていると思っていた人の、思わぬ行動に驚かされたことがありますか？ (まったくなかった) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (いつもそうだった)
3	あなたは、あてにしていた人ががっかりさせられたことがありますか？ (まったくなかった) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (いつもそうだった)
4	今まで、あなたの人生に、 (明確な目標や目的はまったくなかった) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (とても明確な目標や目的があった)
5	あなたは、不当な扱いを受けているという気持ちになることがありますか？ (とてもよくある) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (まったくない)
6	あなたは、不慣れな状況の中にいると感じ、どうすればよいのかわからないと感じることがありますか？ (とてもよくある) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (まったくない)
7	あなたが毎日していることは、 (喜びと満足を与えてくれる) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (つらく退屈である)
8	あなたは、気持ちや考えが非常に混乱することがありますか？ (とてもよくある) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (まったくない)
9	あなたは、本当なら感じたくないような感情をいだいてしまうことがありますか？ (とてもよくある) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (まったくない)
10	どんな強い人でさえ、ときには「自分はダメな人間だ」と感じることもあるものです。 あなたは、これまで「自分はダメな人間だ」と感じたことがありますか？ (まったくなかった) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (よくあった)
11	何か起きたとき、ふつう、あなたは、 (そのことを過大に評価したり、過小に評価してきた) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (適切な見方をしてきた)
12	あなたは、日々の生活で行っていることにほとんど意味がない、と感じることがありますか？ (とてもよくある) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (まったくない)
13	あなたは、自制心を保つ自信がなくなることがありますか？ (とてもよくある) <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> (まったくない)

次の文章について、普段のあなた自身にどの程度あてはまりますか？

あてはまる番号に○をつけてください。

	全くあてはまりません	ややあてはまりません	どちらでもない	ややあてはまります	全くあてはまります
1 だれか私に優しくしてくれる人がある	1	2	3	4	5
2 私は、普段人から背を向けられている	1	2	3	4	5
3 たいてい人は私に快く応えてくれる	1	2	3	4	5
4 だいたいの方は私につらくあたるだろう	1	2	3	4	5
5 私は、よく批判される	1	2	3	4	5
6 私はたいていの場で認められている	1	2	3	4	5
7 私は人並みには大切にされている	1	2	3	4	5
8 他人は私に愛想をつかさかもしれない	1	2	3	4	5
9 私は悪く思われがちだ	1	2	3	4	5
10 私は信頼されている	1	2	3	4	5
11 私は理解されている	1	2	3	4	5
12 私は、よく人からないがしろにされる	1	2	3	4	5
13 少しでもうまくいかないとき、私は見捨てられるだろう	1	2	3	4	5
14 私が行くと喜ばれる場がある	1	2	3	4	5
15 とかく無視されることが多い	1	2	3	4	5
16 私はたいてい受け容れられている	1	2	3	4	5

次の文章を読み、あなたの今の気持ちや考えに最も近い数字1つに○をつけて下さい。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	少しあてはまる	あてはまる
1 私は、自分自身を、ある程度は信頼できる	1	2	3	4
2 私は自分の人生に対し、何とかやっていけそうな気がする	1	2	3	4
3 私は、自分自身が、信頼に値する人間だと思う	1	2	3	4
4 私は、自分自身の行動をある程度はコントロールすることができるという確信を持っている	1	2	3	4
5 私は私で、決して他人にはとってかわることのできない存在であると思う	1	2	3	4
6 一般的に、人間は信頼できるものだと思う	1	2	3	4
7 これまでの経験から、他人もある程度は信頼できると感じる	1	2	3	4
8 私は多少のことがあっても、今の信頼関係を保っていけると思う	1	2	3	4
9 私は現実には信頼できる特定の他人がいる	1	2	3	4
10 無理をしなくてもこの先の人生でも、私は信頼できる人と出会えるような気がする	1	2	3	4
11 今心から頼れる人にもいつか裏切られるかもしれないと思う	1	2	3	4
12 しょせん、周りは敵ばかりだと感じる	1	2	3	4
13 自分で自分をしっかり守っていないと、壊れてしまいそうな気がする	1	2	3	4
14 過去に、誰かに裏切られたりだまされたりしたので、信じるのが怖くなっている	1	2	3	4
15 気をつけていないと、人は私の弱みにつけ込もうとするだろう	1	2	3	4
16 人は自分のためなら簡単に相手を裏切ることができるだろう	1	2	3	4
17 相手が自分を大切にしてくれるのは、そうすることによって相手に利益があるからだ	1	2	3	4
18 私の地位や立場が変われば、私自身も今とは全く違う人間になるだろう	1	2	3	4

次の文章ではあなたの過去の経験についてお尋ねします。あなたが 15歳までに経験しなかったことには「いいえ」、経験したことには「はい」の欄に1つ〇印をつけてください。

<h1><u>15歳まで</u>のことについてお尋ねします</h1>	いいえ	はい
1 1年以上治療を続けなければいけないような慢性的な体の病気をもっていたことがある（例：アトピー性皮膚炎、気管支喘息、先天性疾患、など）		
2 小学校および中学校に在学中、学校の勉強についていけないと思ったことがある		
3 学校や近所でいじめられたことがある		
4 学校を長期欠席（1年間で30日以上）したことがある		
5 警察官に補導されたことがある		
6 一緒に暮らしていた親や親族のしつけが厳しすぎると思っていたことがある		
7 一緒に暮らしていた親や親族からの私の将来に対する期待が大きすぎると感じていたことがある		
8 一緒に暮らしていた親やきょうだいに、体の病気で1年以上病院に通っている人がいたことがある		
9 一緒に暮らしていた親やきょうだいに、心の病気で1年以上病院に通っている人がいたことがある		
10 一緒に暮らしていた親やきょうだいに、お酒を飲む、または、薬物を使うことで、私を不快な思いにさせる人がいたことがある		
11 家が貧しいせいで、食べ物や着るもの、または住むところに困っていたことがある		
12 一緒に暮らしていた親や親族から、食事や洗濯、入浴など身のまわりのお世話をしてもらえずに困っていたことがある		
13 一緒に暮らしていた親やきょうだいから体の暴力（例：殴る、蹴る—など）をくり返し受けていたことがある		
14 一緒に暮らしていた親やきょうだいから心が傷つくような言葉を何度も言われたり、家族同士の激しい暴力や言い争いを何度も目撃したことがある		
15 一緒に暮らしていた親やきょうだいからくり返し裸をのぞかれたり、体を触られたり、性行為を強要されたことがある		
16 一緒に暮らしていた親が死亡するか、離婚や別居によって、あなたの家からいなくなったことがある（生まれた時から親が不在の場合「はい」に〇をつける）		
17 一緒に暮らしていた親やきょうだいに、自殺されたことがある		

## おわりに

本調査は以上ですべて終了となります。ご協力ありがとうございました。

お手数をおかけしますが、アンケートに回答もれや重複がないか、今一度ご確認をお願いいたします。万が一、回答もれや重複があった場合、せっかく時間をかけてご回答いただいたアンケートが正しく活用できない可能性がございますので、ぜひともよろしくをお願いいたします。

最後に、ご協力誠にありがとうございました。

## アルコールに問題がある患者さんに関する調査

### 職員用

表題の研究に必要な患者さんの基本情報の聞き取りとAUDIT実施のご協力よろしくお願いたします。基本情報の聞き取りにつきましては、インタビューやその他の面接と並行して同時実施する方法、面接終了後に用紙に転記する方法のどちらでもかまいません。AUDITは面接形式での実施をお願いします。用紙には患者さんご本人様ではなく、医療スタッフが記入してください。

### 基本情報の聞き取り

#### 記入例

( ) 内が空欄になっている場合は数字や言葉を記入してください

例) 年齢 ( 60 ) 歳

( ) 内に選択肢がある場合には、該当のところに○をつけてください

例) 性別 (  男 ) ・ 女 )

## 基本属性

年齢 : ( ) 歳

施設内 ID ( )

性別 : ( 男 ・ 女 )

現住所 : ( 市 ・ 町 ・ 村 ) ※市町村のみご記入をお願いします

## 家族歴

養育者 (15 歳まで) : ( 両親 ・ ひとり親 ・ その他親族 ・ 施設職員 )

婚姻歴 : ( 未婚 ・ 既婚 ・ 離婚 ・ 死別 )

## 生活歴

住居状況 : ( 単身 ・ 家族同居 ・ 施設 ・ 住所不定 )

経済状況 : ( 自立 ・ 家族等からの支援 ・ 生活保護 )

就労状況 : ( 無職 ・ 有職 ・ 休職中 )

## 教育歴

最終学歴 : ( 中学 ・ 高校 ・ 専門学校 ・ 短大 ・ 大学 ・ 大学院 )

( 卒業 ・ 中退 ・ 在学中 )

教育年数 : ( ) 年 ※小学 1 年生からです

※中退は切り捨て (2 年次中退は 1 年分のみ加算)、留年はノーカウント、専門学校はカウント

※同一カテゴリー (専門学校を 2 校など) は合算せず最も在籍期間が長いもののみカウント

## 既往歴

### 依存症での精神科受診歴

「これまでに依存症の治療のために精神科を受診したことがありますか？」

( いいえ ・ はい )

「はい」の場合→ ( アルコール ・ 薬物 ・ ギャンブル ) ※該当するものすべて

## 依存症以外の精神疾患

「これまでに依存症以外の病気で精神科の治療を受けたことがありますか？」

( いいえ ・ はい )

「はい」の場合→ ( 認知症(F0) ・ 統合失調症(F2) ・ 気分障害(F3) ・ 神経症性障害(F4)

摂食障害(F5) ・ パーソナリティ障害(F6) ・ 知的障害(F7) ・ 発達障害(F8)

小児期及び青年期発症の行動及び情緒障害(F9) ・ 病名不詳(聴取されず) )

※複数該当がある場合は、該当するすべてのカテゴリーに○をつけてください

## 現在通院治療中の身体疾患（内科疾患に限る）

「現在通院治療を受けている体の病気（内科疾患：肝障害、糖尿病—など）がありますか？」

( いいえ ・ はい )

## 飲酒歴

### 初飲

「初めてお酒を飲んだのはいつ頃ですか？」 ( ) 歳

### 習慣化

「習慣的にお酒を飲む（晩酌する）ようになったのはいつ頃ですか？」 ( ) 歳

### 飲酒によるトラブル

「お酒が原因で生活上のトラブル（家族や職場の同僚に注意される、救急車で運ばれる、など）

が起きたことがありますか？」 ( いいえ ・ はい )

「はい」の場合→「初めてトラブルが起きたのはいつ頃ですか？」 ( ) 歳

### メリットとデメリットの逆転

「もうお酒をやめようと思うことはありましたか？」 ( いいえ ・ はい )

「はい」の場合→「最初にそう思い始めたのはいつ頃ですか？」 ( ) 歳